

# 「地域と自然とともに」

新潟ゆうき株式会社

佐藤 正志

# 目次

- 「売れる米」集落を取り込んだ挑戦
- 「売れる米作り」
- 資料

# 「売れるコメ、集落を取り込んだ大規模生産者の挑戦」 ～集落で安全な米作り、米政策をフル活用～①

- \* 昭和56年に農業に参入、所有地70aプラス作業受託でスタート
- \* 昭和61年に総合施設資金を1200万借りて乾燥施設及び施設用地を購入(当時は地元集落からは受け入れてはもらえなかった)
- \* 販売が自由になってから黙々と直接販売に対して努力(消費者と直接会話を重ねることで多くの事を学ぶ)
- \* 平成11年穀物の特定検査場所を申請、取得
- \* 同13年から集落14名他集落2名で岩船有機生産者協会の活動開始
- \* 使用資材の統一(協同購入)
- \* 堆肥の散布(3.5トン/10a)1,500トンの堆肥散布
- \* 選別網1.9ミリ使用
- \* 栽培履歴の公開
- \* 上記を規約に県のガイドラインによる特別栽培農産物の申請
- \* 平成17年産は1等米比率98%で540kg/10aの成績



(画像) 直接販売風景

# 「売れるコメ、集落を取り込んだ大規模生産者の挑戦」 ～集落で安全な米作り、米政策をフル活用～②

- \* 平成15年、民間穀物検査員取得
- \* 平成16年、長男が民間穀物検査員取得
- \* 平成19年、三男が民間穀物検査員取得中
- ☀ 生産調整の大きな変化
  - \* 実需者との結びつきが県農産園芸課より説明を受ける  
(手上げ方式で傾斜配分)
  - \* 平成16年、生産調整方針作成、実需者との結びつき3社と契約4名4.4haの取り組み
    - \* 川部転作組合として2集落の転作大豆13haを2名で受託維持していた。  
5年目で産地作り交付金が6万8千円から4万2千円に減額、土地提供者への減額に対する補填の実施(転作組合が借り入れて支払い)  
6万8千円／10a
    - \* 平成17年からは集団転作で、県の結びつき枠に取り組む意向を農家組合、集落と合意し実施した、16年度私共の行動を見ていた平林転作組合が仲間に入れてほしいとの要望で17haの契約、作付け
    - \* 平成18年は、松沢転作組合の一部が合流プラス関川村の法人が参加22haの契約作付け計画

# 新潟ゆうき株式会社

平成18年3月に「新しい米政策改革大綱」の品目横断的経営安定対策の施行に合わせて設立した農業生産法人です

岩船有機生産者のメンバーが法人に挑戦中(19年度から品目横断の制度に)

3月17日 有限会社  
新潟ゆうき 設立6月  
15日 新潟ゆうき株  
式会社に変更



(画像)集落の参加農家

# すべての農産物、生産の基本は土づくりです

## 「基本的な話」

- 私たちは農家(農産物の生産者)消費者から望まれる農産物の生産する事が仕事です
  - \* 品質の良い物
  - \* 安心安全な物
  - \* 美味しい物



・堆肥散布の様子 散布後プラソイラで耕起する(20cm)

# 地域の自然「嶽薬師」

私たち農業経営との生産に携わるものは、農業生産をすると共に農地保全活動を同時に行っています大きな言葉で表現すると「国土保全」を同時進行しているわけです。

重要な事は経営という視点で採算が取れないと経営は継続出来ないわけです。「土地利用方農業」は特に多くの面積を耕作して生産活動をする、そのこと自体が国土保全活動です



(画像) 圃場より嶽薬師を望む

# 生育調査の様子

- 新潟ゆきが作るお米は今、多くの方々から支持を受けている。
- 昨年の集荷流通実績は約1万5千俵  
「売れる米づくり」を目指す徹底した土作りと安全安心を追及する栽培管理体制。
- 使用資材の統一
- 堆肥の散布
- 選別網1.9mm使用
- 栽培履歴の公開
- 上記を規約に件のガイドラインによる特別栽培農産物の申請など栽培技術協定を生産者すべてと交わしている。
- 高いレベルで品質を統一する為、圃場一筆ごとにデータ管理を実施



(画像) 生育調査風景

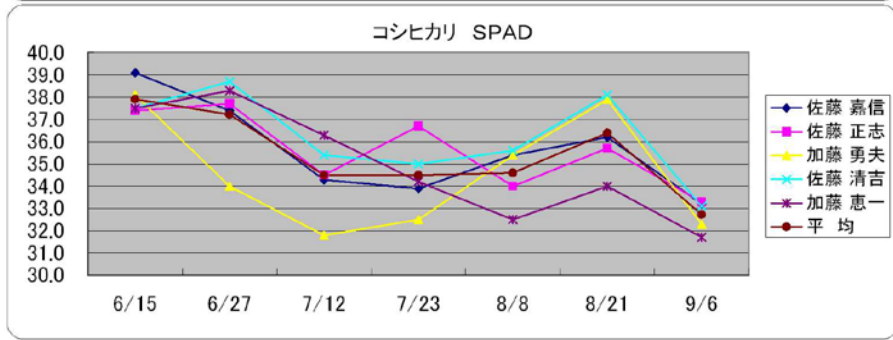
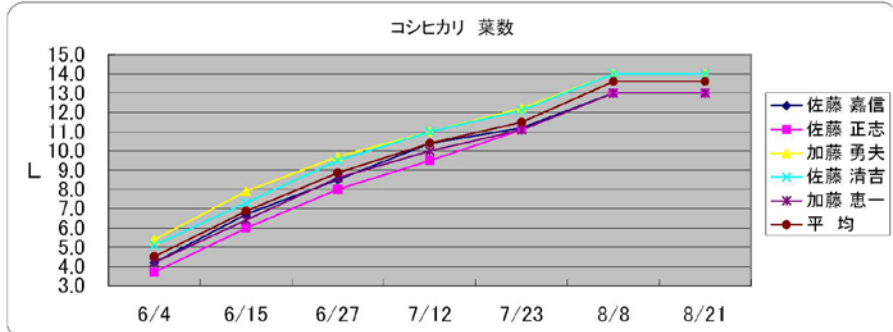
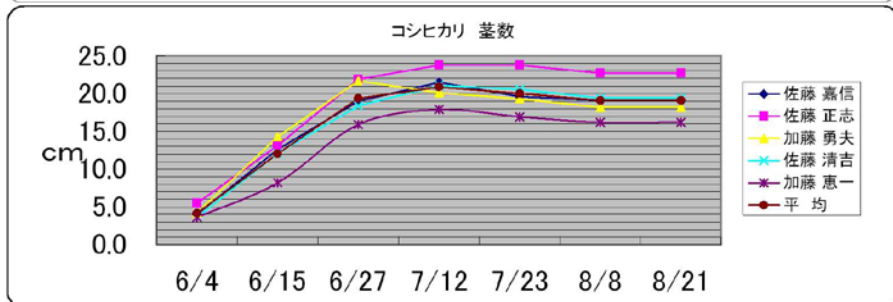
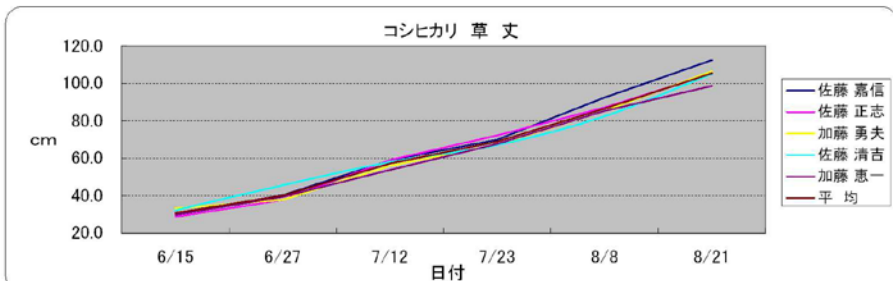


# 栽培管理体制

## 1等米比率90%以上！！

データ管理は徹底的に

- 栽培の管理
- 圃場の管理状況
- 生育調査も全てデータ化、この毎年蓄積したデータが消費者が求める「お米」を作る。
- 1等米比率90%以上を誇る秘密はここにある。
- 参加生産者の試料米による成分分析。
- 収量の分析等確認をするため自家消費も含め全量検査を義務付け
- 残留農薬の外部による分析委託。
- 結果を踏まえ次年度の肥料、農薬設計をする。
- 22年度からは自社で成分分析を実施、生産者の圃場毎の分析をする。
- 土壌分析のデータの対比して土作りの方向性を模索する。



#### 6/4 生育調査

番号	耕作者	品種	田植え	株数(株)	11株間	茎数(本)	葉数(L)
1	佐藤 嘉信	コシヒカリ	5月15日	63.2	174.0	4.0	4.2
2	佐藤 正志	コシヒカリ	5月18日	62.1	177.0	5.5	3.7
3	加藤 勇夫	コシヒカリ	5月10日	63.2	174.0	4.2	5.4
4	佐藤 清吉	コシヒカリ	5月15日	64.7	170.0	3.6	5.1
5	加藤 恵一	コシヒカリ	5月17日	61.8	178.0	3.6	4.2
平均				63.0	174.6	4.2	4.5

#### 6/15 調査

番号	耕作者	品種	草丈(cm)	茎数(本)	葉数(L)	SPAD
1	佐藤 嘉信	コシヒカリ	30.2	12.6	6.7	39.1
2	佐藤 正志	コシヒカリ	28.6	13.1	6.0	37.4
3	加藤 勇夫	コシヒカリ	33.2	14.3	7.9	38.1
4	佐藤 清吉	コシヒカリ	32.2	12.1	7.3	37.5
5	加藤 恵一	コシヒカリ	29.6	8.2	6.4	37.5
平均			30.8	12.1	6.9	37.9

#### 6/27 調査

番号	耕作者	品種	草丈(cm)	茎数(本)	葉数(L)	SPAD
1	佐藤 嘉信	コシヒカリ	40.1	19.0	8.5	37.4
2	佐藤 正志	コシヒカリ	37.6	21.9	8.0	37.7
3	加藤 勇夫	コシヒカリ	37.6	21.7	9.7	34.0
4	佐藤 清吉	コシヒカリ	45.5	18.4	9.5	38.7
5	加藤 恵一	コシヒカリ	39.2	15.9	8.6	38.3
平均			40.0	19.4	8.9	37.2

#### 7/12 調査

番号	耕作者	品種	草丈(cm)	茎数(本)	葉数(L)	SPAD
1	佐藤 嘉信	コシヒカリ	58.9	21.5	10.4	34.3
2	佐藤 正志	コシヒカリ	59.1	23.8	9.5	34.5
3	加藤 勇夫	コシヒカリ	55.9	20.1	11.0	31.8
4	佐藤 清吉	コシヒカリ	57.9	21.1	11.0	35.4
5	加藤 恵一	コシヒカリ	53.7	17.9	10.0	36.3
平均			57.1	20.9	10.4	34.5

#### 7/23 調査

番号	耕作者	品種	草丈(cm)	茎数(本)	葉数(L)	SPAD
1	佐藤 嘉信	コシヒカリ	70.0	19.6	11.2	33.9
2	佐藤 正志	コシヒカリ	72.1	23.8	11.1	36.7
3	加藤 勇夫	コシヒカリ	67.2	19.3	12.2	32.5
4	佐藤 清吉	コシヒカリ	67.0	20.6	12.1	35.0
5	加藤 恵一	コシヒカリ	67.7	16.9	11.1	34.2
平均			68.8	20.0	11.5	34.5

# 平成19年度以降の主な取り組み

- 新潟ゆうき(株)の方針に53農家が参加、総面積150ヘクタール
- 農地・水・環境保全向上対策の申請、許可5年間で1,600万円が地域を潤す、神林村のモデル集落に指定
- 19年にJGAPを取得（担当:佐藤 忍）
- 方針作成者連絡協議会代表として県協議会に参加
- 21年で生産をする予定の米60ヘクタール分(内30ヘクタールがもち米)を6月末現在で全量契約を完了
- 20年11月以降は21年産の営業活動
- 20年産プラス500トンの契約の要望
- 21年度検査数量21,000袋
- 22年度加工用米の契約292トンの取引(長野県46t、福島県56t)
- 22年度新規需要米(米粉用)63.1トン
- 22年度主食用米の販売計画17,305袋

# 平成21年度以降の計画

- JGAP取得を生かし当社の流通する米は今後全てバーコード管理  
(生産者ごと)
- 集落全員が新潟ゆうきの方針に参加
- 特別栽培米の申請面積100ヘクタール
- 様々な販売チャネルで売ることにより、消費が上向く(親戚、知人、友人)
- 生産コストを下げる為に、直播技術の導入



# 新潟ゆうき(株)の人材育成について

新潟ゆうき社員一覧

役職	氏名	性別	年齢		
代表取締役	佐藤 正志	男性	64		
取締役	佐藤 清吉	男性		非常勤	
取締役	佐藤 忍	男性			
取締役	竹内 義文	男性		非常勤	
加工部門	佐藤 ひで子	女性			
6次化担当	竹内 祐介	男性		農の雇用	
生産担当責任者	佐藤 隆純	男性			
生産担当	石田 裕也	男性			
販売企画	時田 千秋	女性		県雇用制度	
生産担当	本間 佳史	男性			
経理事務	小林 直子	女性			

# 新潟ゆうき(株)の福利厚生を考え

- 今後の農業経営は個人から法人に移行する形が増える事で雇用が増加する、雇用環境を整備する事が望まれる。
- 国民年金プラス農業者年金が良いのか？
- 厚生年金を加入することで社員を守る事の意識改革。
- 経営に対する負担が大きいけどやり甲斐が出来る。
- 福利厚生について一般企業は常識。
- 人材確保はしやすい
- 将来のビジョンが描きやすい。
- 平成19年、就業規則の策定
- 平成21年、就業規則の改定

# 平成25年以降の課題

- 平成25年度、政府備蓄米に参加115トンの実績
- 加工用米154トンの契約、地域流通実績
- 平成26年度は政府備蓄が全農がほぼ独占したので、輸出用で対応130トンの計画。
- 国内は需要が縮小して、生産が過剰状態である、将来を鑑みて輸出を増やすことを目標
- 水田を維持する事はお米を作る事が一番合っている。

# 27年産の状況

- 輸出用米の取り組み140トン
- 加工用米の地域流通契約100トン
- 主食用契約栽培420トン
- 輸出に特化した農業法人の設立

市内の2法人、4農家で構成((株)NKファーム)

構成員圃場合計 110ha

- 6次化ファンドでライスセンター取得



# 30年問題の議論

- 平成30年には国よりの配分が無くなる事での問題
- 経営安定対策の固定払い(戸別所得補償) 7,500/10aの廃止
- 地域農業者の高齢化による課題と対策
- 使える農地と使えない農地の選別
- 実態に則した農地台帳の整備
- 国内需要が減り続けることの懸念